

■フィアスコ リプレイ■

ドラゴンスレイヤー・ゴレ子

2017年7月末、海外製TRPS『フィアスコ』の日本語版（PDF）がサプライズ的に発売されました。このリプレイは、そのすぐ翌日に行われた『フィアスコ』オンラインセッションのリプレイです。

なお、本リプレイでは、分かりやすさ重視のためプレイヤー名を省略し、最初からキャラクター名で記載しています。

●キャラクターたち



レン
(錬金術師)



ゴレ子
(ゴーレム)



ルビー
(田舎娘)

ゴレ子 : ででーん！

ルビー : こんばんは。よろしくお願いします。

ゴレ子 : すみません今帰宅しました！ よろしくおねがいしますー！

レン : こんばんわー。よろしくお願いしますー。

ゴレ子 : じゃあ軽く自己紹介をしていきましょう！ 初対面の人ばかりなので。まずは僕から簡単にね。

レン : はーい。

ゴレ子 : ゴレ子です！ 今回はフィアスコが電子書籍化されたと聞いてさっそくやってみようと、勇み足気味ながら当日プレイという無茶な企画に乗って下さりありがとうございます！ ぜんぜんルールが理解できてませんが、皆さんよろしくお願いしますー。以上です！

ゴレ子 : じゃあ、お次はレンさん、簡単でいいので自己紹介をおねがいしますー。

レン : どうも。フィアスコがしたいけどルールが理解できないという迷える子羊に手を差し伸べたウルトラマンガイアです。

ゴレ子 : イケメンだった！

レン : ママンになってる。

ゴレ子 : ウルトラマン……ばぶみか……。

レン : フィアスコ自体、和訳されてる方のセッションに参加させていただいたのが数年前。なので、その有志和訳基準であればそらでルール説明ができるくらいやってます。

ゴレ子 : すごいね伝道師だね！ エヴァンジェリストだね！（カッコいい言い方にした）

ルビー : おおー。

ゴレ子 : では最後、ルビーさん自己紹介をおねがいしまつ！

ルビー : 初めましてルビーです。ここ数ヶ月仕事がとても忙しく、あまりセッションできずにいましたが、最近、少し早く帰れるようになり、時々野良セッションに参加したり、卓を立てたりできるようになりました。よろしくお願いします～。

ゴレ子 : はい、よろしくお願いしますー！

レ ン : よろしくです。

ゴレ子 : ではこの3人でフィアスコがんばっていきましょう！

レ ン : はい。

ゴレ子 : ざくっとお試し感覚で遊んじゃおう！ まずはプレイセットの決定からですかね？

レ ン : ですね。

ゴレ子 : やりたいプレイセットとかありますか？

ルビー : 以前参加したセッションでは、お金持ちの豪華パーティに行くやつだったので、それ以外のやつだと嬉しいです。

ゴレ子 : 石油王か（笑）

ルビー : そうです。

ゴレ子 : 僕的にはドラゴンスレイヤー（ファンタジー世界のやつ）が分かりやすくていいかなと思うのですがそれでもいいでしょうか？ レンさんも知ってるみたいだし。

レ ン : 3回くらいやっています。

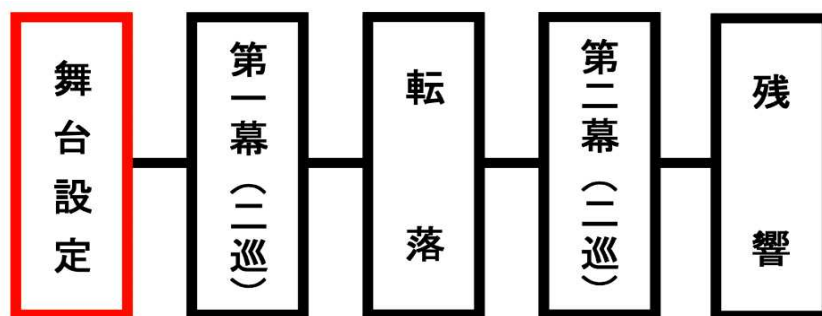
ゴレ子 : じゃあドラゴンスレイヤーでやってみましょうか！

レ ン : ちなみに（まだダウンロードができていない）ルビーさん向けに背景を説明すると、我々はドラゴン（のような神話上の生物）を討伐？ したパーティーという設定です。

ゴレ子 : よしプレイの準備はできたかなー？

ルビー : 準備OKです。

■舞台設定■



●プレイセットの選択

フィアスコでは、まず【プレイセット】を選択します。【プレイセット】は、【人間関係】と【つながり】（【動機】【場所】【物品】）の4つの表からなる、問題構築セットです。それぞれの表には、選んだ【プレイセット】の舞台にふさわしい【要素】が6×6の36ずつ記載されています。

●ダイスを振る

次にダイスをまとめて振ります。その数は、プレイヤー1人につき、白ダイス2個、黒ダイス2個です。

ゴレ子　　ダイス、3人だから12個（白6個、黒6個）かな！　誰が振ってもよさそうなので僕、振っちゃいますね。

白ダイス：5　1　3　4　6　4

黒ダイス：2　4　2　6　1　4

●相関図を作る

キャラクターの相関図を作ります。ひとりずつ順番に場に出ているダイスを選び、【プレイセット】の表に掲載された【分類】【要素】の数値に当てはめていきます。なお、【人間関係】は、隣り合う参加者のキャラどうしに結ばれ、その【人間関係】に【つながり】（【動機】【場所】【物品】）が結びつきます。

ゴレ子　　：お手本をみせてもらうという意味でも初手レンさんで、次僕、最後ルビーさんで行きましょうか。

（注：本来のルールでは、手番は最も小さな町で育ったプレイヤーからです）

レ　　ン　　：僕は手始めにレン～ゴレ子の間に、【人間関係】の【分類】3【魔法】をつけます。

ゴレ子　　：僕とレンさんはゴーレムと主人みたいな関係になる可能性があるってことかー。

レ　　ン　　ー【魔法】ーゴレ子

【プレイセット】のそれぞれの表には、大枠である【分類】1～6とその詳細である【要素】1～6が記載されています。プレイヤーは、まず【分類】を選びます。

【要素】は、【分類】が決まってから、初めて選ぶことができます。

ゴレ子　　：じゃあルビーさんとレンさんの関係をきめちゃうぞ。

【人間関係】【分類】6【戦争】

ルビー　　ー【戦争】ーレン

ルビー　　：では、まだ埋まっていないゴレ子とルビーのにしよう～。

【人間関係】【分類】2【冒険】にします。

ゴレ子　　ー【冒険】ールビー

レ　　ン　　：僕とルビーさんの間の戦争の【要素】を埋めます。

ルビー　　ー【戦争：戦い好き×臆病者】ーレン

ゴレ子 : じゃあ僕とレンさんの間を決めよう。F a t eのアニメでフランケン^①のフランちゃん^②がかわいかったので「ゴーレム×創造主」が面白そう！ と思うので1番の【要素】で。

レンー [魔法 : ゴーレム×創造主] ーゴレ子

ルビー : [冒険] はわりと普通の関係が多いですね。【要素】は [助けた者×助けられた者] で。

ゴレ子ー [冒険 : 助けた者×助けられた者] ールビー

【つながり】 (【動機】 【場所】 【物品】) は、それぞれの【人間関係】に結びつける形で決定します。

レ ン : ゴレ子とルビーさんの間に【場所】の【分類】6 [過去には] を入れます。

ゴレ子 : 楽しそう過去！ (内容がけっこう過激)

ゴレ子ー [過去には] ールビー

ゴレ子 : ではルビーさんと僕の間^③の過去を決めちゃおう。【要素】5 [君を英雄と呼んでくれた町は如何 (彼らを殺してしまう前までは)] で！ (笑)

ゴレ子 : やめるんだ！ ルビーさん！ 彼らに罪はないのに！！！！ (笑) (自分は悪いことしてないムーブ)

ルビー : ひどい (笑)

ゴレ子ー [過去には : 君を英雄と呼んでくれた町は如何 (彼らを殺してしまう前までは)] ールビー

ルビー : ゴレ子さんとレンさんの間に【物品】 (武器) の【分類】4 [魔法の道具] を入れますね。

レンー [魔法の道具] ーゴレ子

レ ン : じゃあ僕とルビーさんの間に【動機】だなあ。どっちにしよ。よし、【分類】4で高飛びしよう！ (笑)

ルビーー [高飛びしたい] ーレン

ゴレ子 : じゃあ僕かー。では僕とレンさんの [魔法の道具] は【要素】4 [謎のポーション (何であるのか誰も知らない)] で。謎は本編で明かされる気がした！

レンー [魔法の道具 : 謎のポーション (何であるのか誰も知らない)] ーゴレ子

ルビー : もうダイスが5の目しか残ってない。

レ ン : あ、最後はワイルドダイスなのでなんでもOK。自由な目で使えますよ。

ルビー : では、[高飛びしたい]は【要素】1 [他のみんなの宝をもって] にします。

ゴレ子 : おっけー。

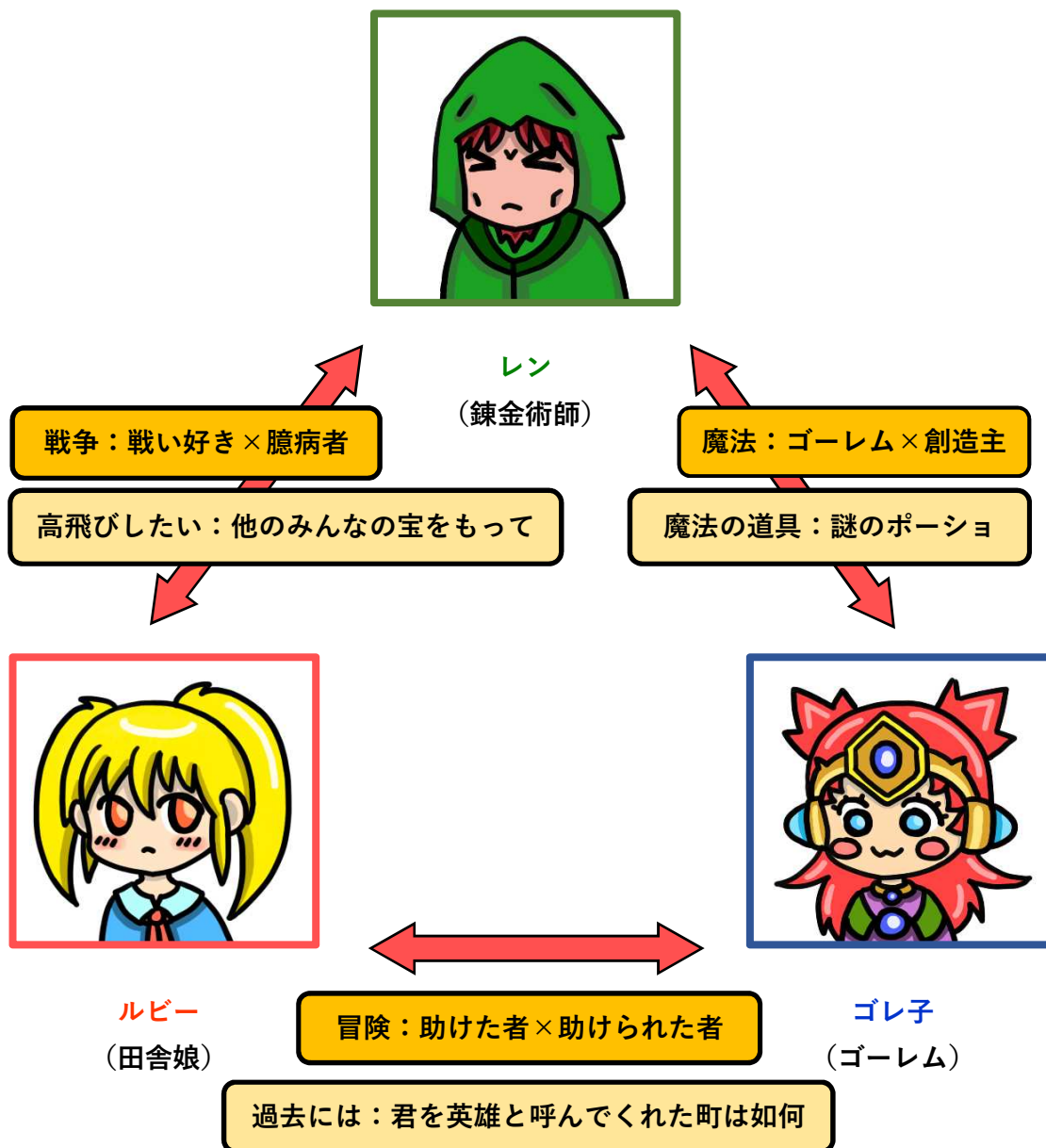
レ ン : 完全に逃げるやつ (笑)

ゴレ子 : ふじこちゃん感ができた。

ルビ— [高飛びしたい : 他のみんなの宝をもって] —レン

使用したダイスは、中央に戻します。

● 相関図まとめ



レン～ゴレ子

【人間関係】 …… [魔法：ゴーレム×創造主]

【つながり】 …… [魔法の道具：謎のポーション (何であるのか誰も知らない)]
(物品／武器)

ゴレ子～ルビー

【人間関係】 …… [冒険：助けた者×助けられた者]

【つながり】 …… [過去には：君を英雄と呼んでくれた町は如何
(彼らを殺してしまう前までは)] (場所)

ルビー～レン

【人間関係】 …… [戦争：戦い好き×臆病者]

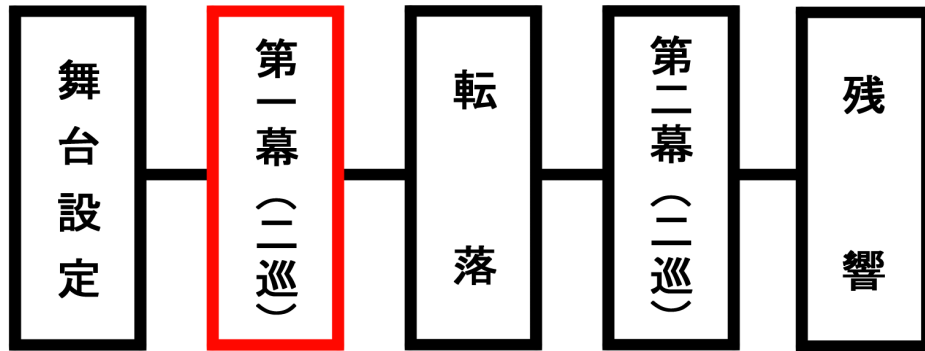
【つながり】 …… [高飛びしたい：他のみんなの宝をもって] (動機)

●キャラクターを創る

相関図の要素をふまえてキャラクターを創造します。

- ゴレ子 : じゃあどんなキャラクターにしようかなー。僕ゴーレム系の人造人間やってみたくていいですか？
- レン : いいっすよー。
- ルビー : きっととても強いゴーレムなんでしょうね。
- ゴレ子 : じゃあ美少女ゴーレムということで。強いです！（笑）
- ルビー : そのゴーレムは、町を壊滅させるくらい強かった。なんて恐ろしい……。
- ゴレ子 : ゴレ子は何も知らなかったのだ……町を壊滅させるつもりなんてなかったのだ……じっと手を見る。
- レン : 作り手ってことは魔法使いとか錬金術師とかかなあ……。錬金術師にしよう。
- レン : あ、じゃあルビーさん、僕戦い好きでいいですか。
- ルビー : じゃあ、私はお宝をもって高跳びしたいことにしてもいいですか？
- レン : はい（笑）
- レン : あ！ じゃあ謎のポーションがみんなの宝なのかな！
- ゴレ子 : あー面白そうですね。どんな薬がよくわかってないけどすごい価値のあるものなんですね。
- ルビー : あの錬金術師は戦い好きだし、ゴーレムは危険……大金をあの人たちに渡したら、きっと世界のためにならない。ここは、私が正しく使って、経済をまわさなければ。
- ゴレ子 : 景気回復！（笑）
- レン : 「あやつはわたらのポーションを狙っておるぞゴレ子」
- ゴレ子 : 「そうなのですか、マスター……でもあの方は私が町の人をジェノサイドするのを止めてくれた……助けてくれたんです」（町の人が助かったとは言っていない）
- レン : 「あの町のことは忘れるんじゃゴレ子」
- ゴレ子 : 「いえ……私の手は血で染まっていますのです……ゴゴゴ」
- ゴレ子 : ルビーさんのキャラとの関係は「助けた者×助けられた者」かどっちが助けたんだろう。ゴレ子の心を救済してくれたのがルビーさん。
- ルビー : （ゴレ子から逃げようとして、偶然おしりのしっぽみtainのを引っぱったら止まった）
- ゴレ子 : しっぽあるのかよ！ どらえもんかよ?!（笑） なんかシリアスぽいのにポンコツぽいぞゴレ子。ていうか名前が勝手にきまっていた（笑）
- ゴレ子 : じゃあキャラの設定はそんな感じでいいかなー？ キャラに名前をつけましょう！ どんな名前がいいかなー？
- ルビー : じゃあ、臆病者のくせにお金のためなら多少の危険もかえりみない、お金大好きな子にします。名前は、ルビーにしますね。両親が、お金持ちになるといいなあという願いを込めて、宝石の名前をつけてくれました。
- ゴレ子 : 僕はゴレ子で！ ゴレ子は罪の意識に悩む意識高い系ポンコツゴーレムです（笑）
- レン : できました（レン＝キンジュ＝ツシ）
- ゴレ子 : レンさんですねー。わりとしぶいおじ様だったー。ではセッション本編をはじめてみましょうか。

■第一幕■



【第一幕】では、プレイヤーが順番に場面を演出していきます。その際、手番プレイヤーのキャラクターが、場面の中心人物になります。

手番プレイヤーは、まず【確立】か【解決】のどちらかを選びます。それぞれ以下のような違いがあります。

【確立】：手番プレイヤーが場面を主導的に演出します。その場面がポジティブな結果で終わるか、ネガティブな結果で終わるかは、他のプレイヤーたちが選択します。

【解決】：他のプレイヤーたちが場面を主導的に演出します。その場面の結果（ポジティブかネガティブか）は、手番プレイヤーが選択します。

●場面1 レン【確立】



レン：では初手なので【確立】でいきたいと思います。

ルビー：初手は【確立】が安定と（みちなきみちをさんの）漫画にもかいてありましたね。

レン：我々は、町の依頼を受けてドラゴン討伐に向かった3人パーティ。

ルビー：「経理ならまかせて！ 帳簿は2つ。バックアップも万全だから安心してね」

ゴレ子：「はい、パーティの収入管理はルビーさんにお任せします」（あかん）

レン：そこでドラゴンのもつ謎のポーションに目が眩んだレン。

レン：「わたしたちの実力ではこんなデカブツ討伐は無理じゃ！ せめてこのポーションだけでも……（サササ）」

レン：「うっひょーにつげろー」（あれ。戦い好き……？）

ゴレ子：「ゴレ子が盾になっている間に、マスター、ルビーさん！ 逃げてください！
ゴーレムシールド展開」

レン：ここでポジティブ／ネガティブを提示しよう。

レン：【ポジティブ】ドラゴンはポーションが取られたことに気づかず眠り続ける（寝てたの？）

レン：【ネガティブ】ドラゴン「私のポーションをどうしようっていうんじゃーい！（ウガー！）」追っかけてきます。

レン：さてどっち！？

ゴレ子 : どっちが面白いかー。話の展開的には寝てると続かなそうだから、ゴレ子的にはネガティブかなあ？

ルビー : 私は、この次の場面で、ゴレ子VSドラゴンを見たいので……ネガティブで（笑）

ゴレ子 : リクエストされたー（笑）

レン : では、満場一致でネガティブっすね。

ゴレ子 : じゃあホビットの映画ばりにドラゴンがすごいSFXで3人を追いかけるかんじかなー。

レン : そしたら、黒のダイスを1個、【第一幕】なので他の2人のどちらかに渡します。ルビーさんにあげます。

【第一幕】では、場面がポジティブな結果で終わった場合には白のダイスを、ネガティブな結果で終わった場合には黒のダイスを、手番プレイヤーが任意のプレイヤーに渡します。

ルビー : 「こんなに大きいドラゴンだなんて聞いてないよー。本で読んだドラゴンはワニくらい大きさだったのにー！」と泣きながら逃げます。

ゴレ子 : さすが臆病者（笑） ゴレ子は果敢にゴーレムシールドでドラゴンプレスを打ち払いながらしんがりをつとめます！

レン : 「ぬ！ この古文書によるとドラゴンは寝たら数十年は起きないはずじゃそ！！ゴレ子、なんとかせい！！」（スタコラサー）

ゴレ子 : 「レン様の古文書はあてになりませんからね……おまかせくださいゴーレムビーム！」目から怪光線「ピー—————」

レン : 「んなもんきかんわーい！（ウガー！）」

ゴレ子 : 「ビームが利きません……ここは撤退しましょう」

レン : （というかそんな寝てるドラゴンの討伐をなんで頼んだんだ町は）（笑）

ルビー : （村人）「ドラゴンのいびきがうるさくて、みんな不眠症なんじゃ……」

ゴレ子 : どんだけ大きないびきなんだ（笑）

レン : 「く、くそう！ 戦略的撤退じゃ！ 行くぞ！ 2人とも！！」

ゴレ子 : レン様とルビーをわきにかかえて華麗にジャンプして逃げます！ 怪力ー。

レン : ポーションはしっかりと握って。

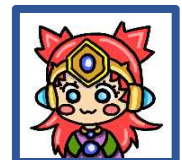
ゴレ子 : しっかりしてるな（笑）

レン : ……と、こんな感じでレンの場面は締めまーす。

ルビー : 「ぐえっ」

ゴレ子 : ルビーがつぶれたカエルのような声をだしたぞ（笑）

●場面2 ゴレ子【確立】



ゴレ子 : じゃあ次はゴレ子の場面かしら。じゃあ、そうだな舞台は、燃える湖畔の町、ほとんどの人が焼き殺されてしまった……。怒り狂ったドラゴンが町を焼き払ったのです……ああなんという悲劇！

ルビー : ドラゴンのせいになった（笑）

ゴレ子 : （町の人）「超とばっちり！」

ゴレ子 : 怒ったゴレ子は2人をがれきの影に隠してドラゴンと対峙するのです（助けに来たくれていいのよ！）

レン : 「わしらを英雄とよんでくれた町が……」（笑）

ルビー : 「私たちにごはんを食べさせてくれた町が……」

ゴレ子 : 【ポジティブ】ドラゴンとの激闘の末なんとか撃退。

ゴレ子 : 【ネガティブ】ドラゴンに焼かれてゴレ子は深刻なダメージを受ける、かなー（笑）どっちがいいでしょう！

ゴレ子 : おはなし的には負けてもおもしろいかなって。でも、勝つ場面の演出もそれはそれで楽しそうだし一旦撃退しておきたいかなあ。

ゴレ子 : 「私たちをお世話してくれた町を……ドラゴン……許しません！」

レン : 一旦撃退しておきたいかなあ。

ルビー : ドラゴンとはまた再会することになるとしても今は撃退のほうがいいなあ。なのでポジティブで。

ゴレ子 : 了解です。ではポジティブで撃退することにしますー。瓦礫と化した炎に燃える町でゴレ子とドラゴンは一騎打ちをしています。しかし実力はドラゴンのほうがはるかに上、やがて燃える湖の淵にゴレ子は追いつめられてしまいます。

ゴレ子 : 「レン様！ このままでは！ くっ！」ガキーンガキーン。たすけてー（笑）

レン : 立木さん「サイクロン！ ジョーカー！」

ゴレ子 : なんだそれはー（笑）

レン : 「え？ ガイアメモリ」（笑）

ゴレ子 : 仮面ライダーネタか（笑） わからなかった（でもなんかが支援に来たことはわかったぞ！）

ゴレ子 : じゃあゴレ子は支援を受けてゴーレムシールドでドラゴンを押し返しはじめます。

レン : その瞬間、レンは気を失い、ゴレ子と融合！

ゴレ子 : なにー。なんという超展開（笑）

ルビー : 私のキャラ、ほんと戦闘時は役に立ちそうにないな〜。

ゴレ子 : なんかアイテムとかで支援してくれてもいいのかも？

ルビー : 物陰に隠れて、こわごわ戦況を見ています（笑）

レン : （仮面ライダーが、2人で1人のライダーなのです）

ゴレ子 : じゃあゴレ子はレンと合体します。ルビーを守るためにゴレ子=レンは融合して、ゲッターマホークブーメランを発射！！！！

レン : 「ゆくぞゴレ子！（ゴレ子の頭に響く声）」

ゴレ子 : 「はい、マスター！」

レン : ビューン！！！！

ゴレ子 : ビューン！ ずばああ！ 翼を切りさかれたドラゴンは苦悶の声をあげながら巣へと飛び去って行くのでした……。適当だけど勝った！ 第一部完！（笑）

ゴレ子 : 「大丈夫でしたか？」

ルビー : （なんなのこの人たち……）

ゴレ子 : （町の人たち）「全然大丈夫じゃありません……」

レ ン : 戦闘を終えて自分の体に戻ったレン「ハアハア……老いぼれにはちときついのうこれ」
ゴレ子 : 「はい……エネルギーを補充しなくては……」
ゴレ子 : という感じでどこがポジティブなんだかわかりませんが場面を閉じます！（笑）
レ ン : はーい。
ゴレ子 : ポジティブダイスはレンに差し上げますー。
レ ン : やったー！ ……のか？（笑）

●場面3 ルビー【確立】



ゴレ子 : じゃあ次はルビーちゃんの場面かな。悲しい場面のよかん！
ルビー : ては、ですね……ひどく破壊された町、かつてのどかな中心部だった広場で、怒った顔の町の人たちに取り囲まれ、口汚い言葉で責められてる私たち。
ゴレ子 : oh……まあそりゃ責めるよな……（笑）
ルビー : （村人）「お前たちのせいで、町がこんな惨状に。いったいどうしてくれるんだ！」
レ ン : ああ……街の人たち死んでない……（笑） 幾人か亡くなってしまった感じかな。
ゴレ子 : （村人）「あたしの生まれたばかりの赤子を返して！ うわーん！」
ゴレ子 : 生き残りもいたのですね！
ルビー : 「え、でもドラゴンがやったことだし……私たちのせいでは……」と言い訳をするルビー。
レ ン : 「そうじゃそうじゃ！」握られているポーション。
ゴレ子 : 「そうです。少なくともルビーさんは悪くありません」
ルビー : しかし、村人の怒りは収まらない。
ゴレ子 : おさまらないよね！
ゴレ子 : （ポーションがすべての元凶な気がしてきた）（笑）
レ ン : （そうに決まっておろう！）（笑）
ルビー : というわけで、

ルビー : 【ネガティブ】みんな拘束されて、お城の牢屋に監禁される。
ルビー : 【ポジティブ】町から追放される（追放されるだけですむ）感じで。

ゴレ子 : ひゃー（笑） まあ監禁も面白そう。
レ ン : ああー。
レ ン : （ドコドコNPC生やしてもいいですし、ドカドカNPC死んでも構いませんからねこのゲーム）
ゴレ子 : 追放のほうが穏便だねー。さてどっちがいいかな……（悩み中）
レ ン : あー悩むなあそれ！
ゴレ子 : レンさんどうしましょう。
レ ン : 次の場面への流れも考えて……どうしよう。
ゴレ子 : うーん、そうだなー、場面的には監禁は面白いロールプレイできそうだけど。

ルビー : (村人) 身ぐるみはがせてもらう。わずかな金にしかならんじやろうが、亡くなった人への見舞金にしよう。

ゴレ子 : なんだってー (笑)

レン : 流れを考えると監禁されるがいいかなあ。

ゴレ子 : じゃあゴレ子も監禁で。ロールプレイもはかどりそうです。

ゴレ子 : ゴレ子のお腹の隠しポケットにポーション隠しておいていいですか！

ルビー : では、ダイスがまだないゴレ子さんに黒ダイスを。

ゴレ子 : ありがとうございますー。

レン : じゃあ場면을締める演出をする感じかな？

ルビー : こうして私たちは、とても不潔でものすごく臭いお城の牢屋に監禁されたのでした……。

ゴレ子 : ガシャーン！

ルビー : 「ああ、なんだか強そうな2人にドラゴンを倒してもらって、財宝ゲットのつもりが……なんでこんなことに」

ゴレ子 : 「ルビーさん、こちらの毛布のほうがわずかにダニが少ないようです。こちらをおつかいください」

ルビー : 「ありがとう…… (なんとか私だけでも出してもらえないかしら……)」

レン : 「古文書だけは！ これがわしの生きがいなんじゃ！ 頼むう！」

ルビー : (番兵) うるさい、パンツだけは見逃してやる。後はこっちへよこせ。

ゴレ子 : パンツ以外取られちゃうのかー (笑) ゴレ子はカボチャパンツ一丁になってその他の装備はわたしますがね！

ルビー : そんな感じで、みんなして牢屋に閉じ込められ、場面終了です。

ゴレ子 : こいつら自分のことしか考えてねえ (笑)

●場面4 レン【確立】



レン : 「うおおお出せえええええ出せええええ！！」

ゴレ子 : 「レン様。鉄格子は殴っても開きません……」

レン : 「ハァハァ……ゴレ子の力を持ってしても破れん牢獄とは……」

ゴレ子 : 「どうやら魔法的な結界が施されている様ですね……」

ルビー : 「そんなすごい牢だったの？」

レン : 「しかあし！ このパン……下着の中に隠し持った古文書の読解は捗る捗る！」

ゴレ子 : 「さすが王都の牢獄です。セキュリティもばっちりです。衛生状態は最悪ですが」

レン : 王都なんだ (笑)

ルビー : 「うえーん、こんなところやだー」

ゴレ子 : 「ルビー様。さあ、この薄いスープを飲んでください。食べないと死んでしまいますよ？」ゴレ子は食べなくても大丈夫なので！ なので！」

ルビー : 「ゴクゴク」 (我が家でお客さんに出していたカルピス並みに薄いよ、このスープ！)

ゴレ子 : ルビー家のカルピス (笑)

ゴレ子 : 「そういえば、この古文書には何が書かれているのですか？」

レ ン : 「先人の知恵の塊じゃ。『オバアチャンノチエブクロ』というらしい」

ゴレ子 : 「オーバーチャング……それは伝説の魔女の名……バーバ・ヤーガに匹敵するという……（テキトー）」

ゴレ子 : 「何かここから脱出するために使えそうな情報は掲載されているのでしょうか？」

レ ン : 「この古文書によると、かのポーション（町民に預けられた）はのう……」

ゴレ子 : 「ポーション……あのポーションになにか秘密が？」

レ ン : 【ポジティブ】古のドラゴン討伐の秘薬だった！ だからドラゴンが倒されまいと守っていたのだ！

レ ン : 【ネガティブ】まき散らされると世界の崩壊を招く災厄のポーションだった！ しかも少しヒビが入っている！

ゴレ子 : やべえ（笑）

レ ン : で、どっちがいいですか？（笑）

ゴレ子 : ゴレ子はネガティブですかねー。大惨事の香りがするぜ（笑）

ルビー : 私はポジティブかなあ。名誉挽回のためには、やはりドラゴンを倒しに行きたいし。

ゴレ子 : ポジティブだと正統派な感じがしますねー。意見が割れたときは話し合いとかで決める感じですかねー。まあでもルビーさんがドラゴンたおしたいというならゴレ子も協力を惜しみませんぞー。というわけでポジティブにしましょうか。

ルビー : ネガティブもそれはそれでおもしろそうだけど、せっかく譲っていただいたのでポジをお願いします。

レ ン : はい。

ルビー : 「古文書にそうかいてあるんですか？」

ゴレ子 : 「あのポーションがドラゴンを倒すカギであると？」

レ ン : 「この『オバアチャンノチエブクロ』に間違いはない！」

レ ン : （村人）「ん？お前何を手に持っている？」

レ ン : 「は！ いや！ これはちり紙じゃ！ チーン」

ゴレ子 : かんじゃったよ（笑）

ゴレ子 : 「ではなんとかこの牢を抜け出してドラゴンを退治しなくては……」

レ ン : 「そうじゃ！ そのことを町民たちに話してここを出してもらおうのじゃ！」

ゴレ子 : 「……それ最初に言っていてくだされば……」

レ ン : 「今解読したんじゃよ！！」

ルビー : 「じゃあさっそく、そのことを伝えて、ここを出してもらえるように交渉しましょうよ！」

ゴレ子 : 「しょうがないですね！ じゃあ説得しましょう！」

ゴレ子 : 説得（物理）

ルビー : 「おーいおーい、誰かいませんかー」

レ ン : ……と、この辺で締めますか。ネガポジは決まっているので。

ゴレ子 : はい。

レ ン : 白ダイスはルビーちゃんに。

ルビー : やったー! ?



●場面5 ゴレ子【解決】

ゴレ子 : じゃあ次の場面か。どんな場面がいいか……うーむ。せっかくだから【解決】選んでみようか! 丸投げ!

レン : おお。

ゴレ子 : たまにはね、違うことしてみようかと。どうなるんだろうワクワク。

ルビー : この場合は、ゴレ子さん以外のプレイヤーが、展開を考えるのかな?

レン : うーん。ゴレ子の場面かー。順当に行くと説得の場面ですね。

ルビー : では、騒いでいる我々のところに町長がやってくることにしましょう~。

ゴレ子 : じゃあさっきの場面の続きですね

ルビー : 破壊した町の賠償金額が記載された書類をもって。

ゴレ子 : やべえ (笑)

ゴレ子 : 「町長さん……ですか? なんですか? その紙は」

レン : 「ちり紙か?」

ゴレ子 : 「レン様はご老人なのでお尻が緩いのです……そのちり紙をおわたしてください (ドイヒー)」

ルビー : (町長) 「キミたちは、強制労働所送りになる。賠償がすむまでそこで働くことになるだろう」

ゴレ子 : な、なんだってー。死ぬまで労働所出れないぞ、そんな金額 (笑)

レン : 人死んでますしねえ。

ルビー : (町長) 「賠償額は、プルトニウム貨で100万枚じゃ」

ゴレ子 : プルトニウムかよ! (笑)

ゴレ子 : 「まってください。あれはドラゴンがやったことで私たちの責任ではありません」

ルビー : 「そうですよ、ドラゴンのせいですよ! それに、もうドラゴンは目覚めちゃったんだから、どんなに町を再建してもまたすぐに壊されちゃいます!」

レン : 「そして! わしらはそのドラゴンを倒すすべを持っている!」

ゴレ子 : 「そうです、そしてドラゴンを倒せるのは私たちしかいません! (ドヤ) このまま野放しにしてはドラゴンに完全に町をほろぼされるだけです」

ゴレ子 : (町長の子分) 「なんだって? ドラゴンを倒すすべ?」

ゴレ子 : (町長の子分2) 「まさか! まゆつばだ!」

ルビー : (町長) 「いいかげんなことを言うな。この前の襲撃のとき、ドラゴンに手も足も出なかったではないか」

ゴレ子 : 「それが、さきほどうちの錬金術師が古文書を解読したのです」

レン : 「そうそうこの古文書……って持ってるのバレルジャロ!」

ゴレ子 : 「それを隠してたら一生労働場送りですよ……レン様」

レン : 「う、うむ! この古文書によると、わしらが持ち帰ったポーション、あれが重要なじゃ!」

ルビー : (番兵) 「まさか、あの元気なパンツの膨らみが、隠し持っていた古文書だったというのか! ?」

レン : 元気な (笑)

ゴレ子 : 「そうです、あのポーションを使ってドラゴンを倒しますのでここをだしてください」

レン : 「あのポーションはのう……ゴレ子の……」

ゴレ子 : 意味深なこといいだだぞこのおじいちゃん (笑)

ルビー : (町長) 「この黄金色の液体がなんだというんだ」町長は、ふところからポーションを取り出します。

ゴレ子 : おい (笑) おしっこ以外の黄金色の液体の正体が思い浮かばないんですが (笑)

レン : はい、ここでネガティブ／ポジティブ! とかどうすか! ゴレ子の場面だし! このネガティブ／ポジティブも我々2人で決めて、ゴレ子を選びます。

レン : で、ルビーさんどうしましょう。ネガティブ／ポジティブ。

ルビー : きっと、これはゴーレムのパワーアップ燃料なんですよ。パワーをととても増大させるけれど、本体にひどく負担をかける感じの。

レン : ふむふむそっちがポジティブっぽいですね。

ゴレ子 : やばいゴレ子帰ってこれなくなりそう (笑)

ゴレ子 : 【ポジティブ】ポーションはゴーレムに作用するニトロ的なパワーアップ燃料である。強化ポーション『ドラゴンノオシッコ』

レン : 【ネガティブ】ゴーレムの原動力を活性化させ、自爆させるポーションってことでひとつ。

ゴレ子 : わー (笑) じゃあその2つから選べばいいんですね。うーん。まあ、でも後者のほうがギリギリ感あるのでネガにしてみようかな! ゴレ子がドラゴンを倒すとゴレ子は自爆しなくてはならない! で!

ゴレ子 : えーと、レンさんに渡せばいいかな? 黒ダイスどぞー。

レン : 縛りプレイ! (笑)

ゴレ子 : それを避けるためにがんばってもいいかなって (笑)

ルビー : 「ええっ! ちょっと、ちょっとそれは」

ゴレ子 : 「そうですか……しかしこのゴレ子、町の人たちのためなら命も厭いません! むしろ自爆とかかっこいいですし! (ふんす)」

ルビー : (町長) 「ふむ、その機械人形の自爆でドラゴンを倒そうというわけか」

レン : 「そうじゃ! この子はわしの最高傑作。なくすのは惜しいが、この方法しかない!!!」

ゴレ子 : 「私はレン様につくられた命無き人形……こわれたところで悲しむ人もいません」

レン : 「と、ゴレ子もいっておる!」

ルビー : 「えっでも……それだとゴレ子ちゃんは……」

ルビー : (町長) 「錬金術師、本当にできるのか、そんなことが?」

ゴレ子 : 「レン様ならその程度造作もありません。このドラゴンのお小水があれば……」

レン : しょんべんになった!!! (笑)

レン : 「なーに残骸集めてまた作ればいいんじゃないよ自我はどうなるかわからんが」

ゴレ子 : 「そんな気楽に治せるのー?」 (笑)

ルビー : (町長)「実際のところお前たちに強制労働をさせたところで、はした金にもならん。いいだろう、やれるものならやってみるがいい」

ゴレ子 : やった。なんとかなった (なってない)

レ ン : 死ぬまで働かせるつもりだったなこいつ (笑)

ルビー : (町長)「ドラゴンを本当に倒してみせたなら、今までのこと全て不問としよう」

ゴレ子 : 「ありがとうございます。このゴレ子見事ひと花咲かせてみせます」

レ ン : 「よ、ようし。わしらに任せろ！」

ゴレ子 : という感じで場面閉じかな。

レ ン : なかなかひどい。さすがフィアスコ (笑)

ゴレ子 : みんなロールプレイうまいー。

ルビー : なんか、王道な感じの熱い展開になってますね。

レ ン : ウンウン。

ゴレ子 : ゴレ子は自爆以外の方法を考えないと。まあ【転落】でどうなるかわからないですが (笑)

●場面6 ルビー【確立】



ルビー : では、私の番ですね～。

ルビー : あれから町を出て、ドラゴンの巣へと再度向かう途中。日は暮れ、今はキャンプをしているところです。

ゴレ子 : ホーホー (フクロウの声) いい場面だ。

ルビー : 皆で焚火を囲っています。

ゴレ子 : 「明日はドラゴンの元にたどり着けるでしょうか……」パチパチとはぜるたき火。

ルビー : 「……………そのことなんだけど」

ゴレ子 : 「? どうしたのです? ルビーさん」

レ ン : 「(わしの服、こんなに小さかったっけ……) くそう。あやつら、質の悪い洗剤を使いおって……」

ルビー : 「ドラゴンは強かったし、町長も偉そうでいけすかなかったし……。もう、このままみんなでとんずらしちゃおうよ」

ゴレ子 : 「それは……」

レ ン : 「……! ?」

ルビー : 「ドラゴンの巣に向かうふりしてさ、隣の国まで逃げちゃえば、むこうも追いかけはこられないよ」

ゴレ子 : 「いえ、ルビーさんあなたの言うことももっともですが……さすがに私たちが逃げたら町の人々はドラゴンに……」

レ ン : 【動機: 高飛びしたい】が! (笑)

ゴレ子 : キャラの設定を生かしたいいいロールプレイだ (笑)

レ ン : 「む、ムウ。しかしこのシヨンベ……ポーションさえあれば……」

ゴレ子 : プレイヤーも逃げたい (笑)

ルビー : 「薬品は、夜になったら青く光ってきれいだし、きっと高く売れるよ」

ゴレ子 : チェレンコフ光が……! (被ばくしちゃう!)

ゴレ子 : 「うーん、たしかに……でも……（黙考）」

レ ン : 「わしはその意見には反対じゃ」

ルビー : 「ええっ、どうして!？」

レ ン : 「このポーションの威力を試してみたい。」知識の追求!

ゴレ子 : えー、そんな理由かよ！（笑）

ルビー : 「ゴレ子ちゃんは、それでいいの？」

ゴレ子 : 「私もいまここから逃げるわけには……町の人たちを見捨てられません」（町にドラゴンを誘導して燃やした人ですが……）（笑）

レ ン : 「ほれ、お前さんはいつでも直せる（多分）」

ゴレ子 : 「はい、レン様はもともと戦闘大好きっこだすしね」

ゴレ子 : 「ルビーさん、危険ですからルビーさんだけでも逃げていいのですよ？」

ルビー : 「……わかった。2対1だね」

ゴレ子 : 「……」

レ ン : 「そうじゃそうじゃ。ゴレ子とこのポーションさえあればなんとかなる」

ルビー : 「じゃあ、明日は今日よりもっと歩かなきゃいけないから、そろそろ寝ましょう」

ゴレ子 : 「そうですね……」

レ ン : 「臆病者はとっととさるが良い！ カッカッカ」

ゴレ子 : ルビーちゃんは逃げるのだろうか？（笑）

ルビー : そして、夜も更けたころ……

ゴレ子 : 何が起きるんだー（笑）

ルビー : 暗い林の中を、青く光る薬品を持って、駆けているルビィ。

レ ン : あー！（笑）

ゴレ子 : 持ち逃げした————（笑）

ルビー : ルビィは、2人が寝ている隙をついて、薬品を持ち逃げしたのだ。

ゴレ子 : ルビーちゃん……その気持ちもわかる！（笑）

ルビー : （あんな危険なドラゴンのところにまた行くなんてまっぴらごめん）

レ ン : 「ほれ、ゴレ子、やめいくすぐったいじゃろ……（ぐおーぐおー）」

ゴレ子 : 「レン様……寝言がキモイです……すやーすやー」

ルビー : （このお宝は、私が換金して有意義に使わせてもらうわ）

ルビー : （それに……）

ゴレ子 : 経済発展のため！

ルビー : （これがなければ、2人もドラゴンに立ち向かったりはしないはず……）

ルビー : （きっと討伐をあきらめてくれる……）

ゴレ子 : なるほどー。いい子だった。

ルビー : そんなことを思いながら、なるべく遠くまで逃げようとするルビィだったが、

ゴレ子 : だったが！

レ ン : が！

ルビー : だんだんと近づいてくる羽根の音。

ゴレ子 : やっぱきたか（笑）

レン : ですよー。

ゴレ子 : (ドラゴン) 「ばっさばっさ……小娘……そのポーションを渡せ……ゴゴゴ」

ルビー : ドラゴンが、ポーションの放つ光に気づき、こちらにやってきたのだ。

ゴレ子 : ルビーちゃんピンチ！

ルビー : 「だめ、これは渡さない……」

ゴレ子 : (ドラゴン) 「それを渡さなければおまえは炎の息に焼かれて消し炭だ……」

ルビー : 逃げようとするルビー。しかし、無力なルビーは、ポーションのビンを抱えたまま、ドラゴンの口にくわえて摘まみ上げられ……

レン : そこまで描写するのか！

ゴレ子 : どうなるのだー。気になるー (笑)

ルビー : 【ポジティブ】ポーションはドラゴンに取られてしまうが、ルビィは暗い海に落ちて一応助かる。

ルビー : 【ネガティブ】ルビィはポーションごとドラゴンに連れさらられてしまう。

ゴレ子 : なるほどー。うーむどっちも面白そうだけど。連れ去られちゃうと後の展開でルビーちゃんが登場しづらそうなのでゴレ子的にはポジティブで！

レン : あー。ちょっと連れ去られて欲しかった (笑)

ゴレ子 : それでもいいのよ (笑) じゃあどうしようか。

レン : 割れたのでダイス勝負でもします？

ゴレ子 : いいでしょう。

ゴレ子 : 1D6振って大きいほうが勝ち。でりゃー！ 「4」

レン : 「5」

ゴレ子 : まけた (笑) あ————、ルビーちゃんがああああ (笑)

ルビー : プレイヤーが4人だと、多数決で決まりやすいんですけど、3人だと意見が割れたときは、ダイス勝負にしたほうがてっとりばやいかもですね～。

ゴレ子 : ですねー。

ゴレ子 : (ドラゴン) 「わーっはっはっはは！」

ゴレ子 : じゃあルビーちゃんはドラゴンの住む山に連れ去られちゃうでいいかなー？

ルビー : 「お前のような虫けら、殺すのは簡単。やっかいなのは、あの錬金術師とゴーレムだ」

ルビー : (ドラゴン) 「やつらをおびき寄せる餌くらいにはなろう……」

ゴレ子 : なんてこった！ そうしてルビィはドラゴンの連れ去られたのでした。

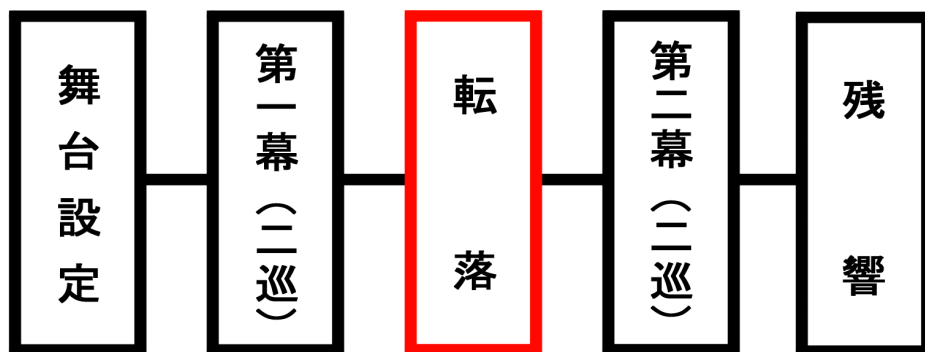
ゴレ子 : 「ううん…… (目が覚めた) あれ、ルビーさん……？」東の空を見る。

レン : 「おおおおおわあああ！！ ションベ……ポーションがないiiiiiiiiiiii」

ルビー : では、ゴレ子さんに黒ダイスを。

ゴレ子 : じゃこの場面は終了かな！

■ 転落 ■



【第一幕】と【第二幕】（それぞれ各プレイヤー2場面ずつ）の間に【転落】というイベントが発生します。

各プレイヤーは、【第一幕】で得た白ダイスと黒ダイスを振り、色ごとの出目を合計して、高い色の値から低い色の値を引きます。

その結果、白と黒、それぞれの値が1番高かった2名のプレイヤーが、【転落】の【分類】【要素】の決定に参加できます。

ゴレ子 : じゃあ次は、【転落】を決めますかー。

ゴレ子 : まずダイスを振ってみよう！

レン : じゃあ振りまーす。「黒の1」ですね。

ゴレ子 : 「黒の2」です！

ルビー : 差し引き「0」でした。

レン : これ、黒と白の最高値なので、【転落】内容決定の権利があるのはゴレ子とルビーですね。

ゴレ子 : あ、そうなのか。

ルビー : 私とゴレ子ちゃんがまず【転落表】の【分類】をそれぞれ選び、その後、相手を選んだ【分類】の【要素】をまた選ぶんだね。

レン : そうです。暇な僕が記入しますよ。

ルビー : 【分類】1 [大混乱]で。

ゴレ子 : 【分類】2 [悲劇]です。

ゴレ子 : じゃあ[大混乱]の【要素】2 [死に物狂いの追走劇]

ルビー : 残りのダイスは2、3、6か。迷うな～。

ルビー : 解釈の幅が広いから3にしておきますね。

ゴレ子 : [悲劇]の【要素】3 [苦痛・苦悩、そして混乱が訪れる]ですね。重いなあ（笑）

レン : なんかすげえ（笑）

ルビー : この先、いったいどうなってしまうんだ……。

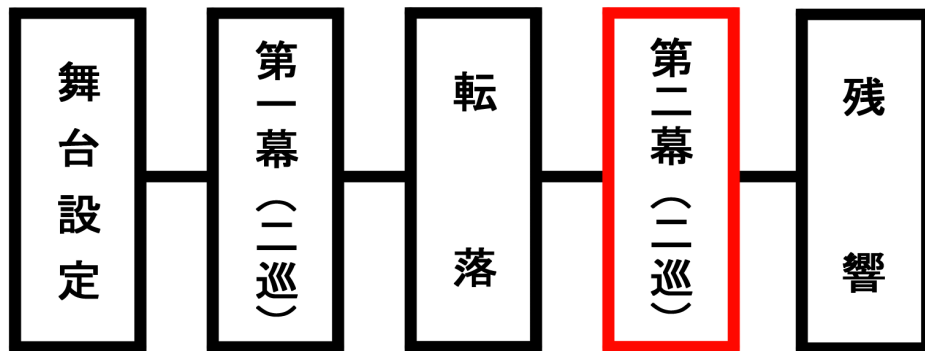
ゴレ子 : わくわく！ じゃあ第二幕に突入だー！

● 転落まとめ

[大混乱 : 死に物狂いの追走劇]

[悲劇 : 苦痛・苦悩、そして混乱が訪れる]

■第二幕■



●場面7 レン【確立】



ゴレ子 : じゃあレンの場面からかな。

レ ン : ちょっとやりたいことがあるから【確立】で行きます。

レ ン : 時は遡り。

ゴレ子 : さかのぼった (笑)

ルビー : 回想場面かな。

レ ン : レンが例の古文書を見つけ出すあたりまで。

レ ン : この古文書には、ゴーレム (=ゴレ子) の作成方法が載っていたんです。なので、自爆装置の起動方法も乗ってるんですな。

ゴレ子 : ゴレ子誕生秘話！

レ ン : (若き日のレン) 「おお！ これは！ 私の探し求めていた古文書！！！」

ゴレ子 : 若き日のレンのイメージが思い浮かばん (笑)

レ ン : (あれ。先週オバアチャンノチエブクロとか言ってたよな……)

レ ン : (すげえなオバアチャン)

ルビー : おばあちゃんは魔女だったのかな。

ゴレ子 : バーバヤーガクラスの魔女だったに違いない。

レ ン : 「……見ているよ我が妻よ。成し得なかった「娘」を今、ここに……」視線の先には美しい女性の写真。

ゴレ子 : そんな過去が (笑)

レ ン : そうやって数年間かけてやっと生み出されたゴレ子。

ゴレ子 : チビゴレ子「バブー」

ルビー : ちいさかったのか (笑)

レ ン : 「やった！ やっと完成だ！！ ゴレ子！」 (ネーミングセンスよ)

ゴレ子 : 「バブーパパア……」

レ ン : 小さいのか (笑) 成長するのか。いいや、それで (笑)

ゴレ子 : ゴレ子は成長するのだ！ (笑)

レ ン : さてネガティブ/ポジティブ。

ゴレ子 : さてさて。

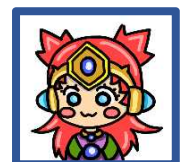
レン : 【ポジティブ】古文書を完璧に読解したレンの最高傑作、ゴレ子誕生。
ゴレ子 : え、ネガティブは一体…… (笑)
レン : 【ネガティブ】古文書のページが破れているのに気づかず、最強の欠陥品、ゴレ子誕生。

ゴレ子 : ポンコツだー (笑)
ゴレ子 : ルビーちゃんどっちにします? ゴレ子的にはどっちもおいしくて困る (笑)
ルビー : では、ネガティブに一票を (笑) (ひどい)
ゴレ子 : じゃあネガティブでー (笑)
レン : はーい。
ゴレ子 : ポンコツゴレ子誕生である。
レン : では、第二幕なので黒ダイスを自分に。

第二幕では、場面がポジティブな結果で終わった場合には白のダイスを、ネガティブな結果で終わった場合には黒のダイスを手番プレイヤーが入手します。

ゴレ子 : 場には白ダイスばかりのこってるぞ!
ルビー : ほんとだ (笑)
レン : では、締めとして、前のルビーの場面、寝る前です。
ゴレ子 : チビゴレ子「ブーブーばぶー」(ネジが一本抜けている)
レン : 「……あの破れていたページには何が書いてあったんじゃろ。つい数ヶ月前に気づいたんじゃが…… (独り言)」
ゴレ子 : 「なにかおっしゃりましたか?」謎の伏線!
ゴレ子 : 謎が深まった!
レン : 「い、いや! なんでもない! なんでもないゾォゴレ子やー! (ワシワシ)」
(冷や汗)
ゴレ子 : 「ワシワシしないでください。もうゴレ子は小さくないのですから……」
ルビー : 次はゴレ子さんかな。
レン : あ! 【転落】全然踏まえてねえ! (笑)
ゴレ子 : わはは、どんまい。
ルビー : 苦悩と混乱はあった気がするよ (笑)
ゴレ子 : 混乱はあった気がした! (笑)

●場面8 ゴレ子【確立】



ゴレ子 : ではゴレ子の場面。うーん、どんな場面にしようか。
ゴレ子 : ドラゴンからルビーちゃんを助け出したんだけどもうたどり着いちゃってもいい? ドラゴンからルビーを助け出して逃げる場面とか! (ただしポーションは無い。ど、どうかな?)
レン : ポーションはない (笑)
ルビー : せっかく捕まったので、次で捕まった場面をちょっと演出したいかも。

ゴレ子 : そうかー。じゃあ回想場面にしよう。

ゴレ子 : 3人がなぜか別の町の人達に追われています。「死に物狂いの追走劇」です。

ゴレ子 : たぶん、ゴレ子がレンの命令で夕食のパンを盗んだのが気に障ったのでしょう。こまった町の人たちです。

レ ン : 命令 (笑)

ゴレ子 : というわけで官憲100人くらいに3人が追われている場面です。

ゴレ子 : 「まったく、ご主人様のせいでこんなことに……！」

ルビー : 錬金術師、意外とお金なかった (笑)

ゴレ子 : 小脇にルビーとレンを抱えて走るゴレ子。

ゴレ子 : 町はずれの街道を走って逃げています。

レ ン : 「わしは悪くないぞ！ ちょっと小腹が空いちゃっただけじゃ！！ (スタコラサー)」レンはパンを抱えています。

ゴレ子 : 「人間というのは不便なものですな……」

レ ン : もぐもぐ。

ゴレ子 : 「しかし捕まるのは面白くありません。このまま逃げ切らなくては……！」

ルビー : もぐもぐ。

ゴレ子 : ルビーちゃんもちゃっかりしとるな (笑)

ゴレ子 : 「前方に衛兵30人を視認。回避行動に移ります」

レ ン : 「ゴレ子！ 首の後ろのボタンを押せ！」

ゴレ子 : 「……？ ポチ」どうなるの？！ (笑)

レ ン : システム音『クロック、アップ！』

ルビー : なんか秘密の装置がついてた (笑)

ゴレ子 : じゃあここでネガティブ／ポジティブ。

ゴレ子 : 【ポジティブ】ゴレ子の首の後ろのボタンは加速装置だった。みごと敵から逃げ切る。

ゴレ子 : 【ネガティブ】ボタンは搭載されていた核ミサイルの発射ボタンだった。町ごとジェノサイドして逃げ切る。

ゴレ子 : さあどっち！

レ ン : ジェノサイド (笑)

ルビー : 私は、ポジティブにしとこうかな……。ここで黒ダイス使ったら、後、白ダイス一色になるしね。

レ ン : (ちなみに最後のダイスは白黒、選択自由です)

ルビー : なるほど～。

レ ン : あーでも想定していたのクロックアップ (加速) だからポジに1票！

ゴレ子 : じゃあ町の人たちの命は救われました。

ゴレ子 : 「ヒューン！」という音とともにゴレ子の足が変形しジェットスクランダーが出現。超絶ジェット加速で音速を突破。

レ ン : これでゴレ子に加速装置が搭載されたぞ！ (笑)

ゴレ子 : ソニックブームを発しながら衛兵たちをぶっちぎったということがあったとき！
これでこの場面は終わりです！

ゴレ子 : お題のチェイスはこなしたぞー (笑)

●場面9 ルビー【確立】



ルビー : では、ドラゴンの巣穴に連れてこられたルビー。

ゴレ子 : ゴゴゴゴゴ。

ルビー : ドラゴンがひまつぶしの面白半分には転がしたり蒸気をふきかけたりするのでルビーはポロポロになっています。

ゴレ子 : かわいそー (笑)

ゴレ子 : (ドラゴン) 「ふん、慰み者にもならぬ……ゴロゴロ……ブシャー」

ルビー : 「残念だったわね。私みたいなただの人間……誘拐したって誰も助けに来たりしはないんだから」

ゴレ子 : (ドラゴン) 「そうか？ お前のことをあの2人は大事にしていたようにみえたがな……ゴロゴロ」

ルビー : (ドラゴン) 「来るさ。このポーションがここにあるかぎりな……」

ゴレ子 : ゴゴゴゴゴ。

ルビー : 「どうということ？ ポーションを取り戻したのなら、もうゴレ子たちなんてほうっておけばいいじゃないの。あなたには歯が立たないんだから」

ゴレ子 : 意味深な (笑)

レン : (なんでこのドラゴン、自分の排泄物を瓶に入れてためてるんだろう……) (笑)

ルビー : (ドラゴン) 「そういうわけにはいかん。これは、我らが力のもと、古の魔力が濃縮されたお宝」

ゴレ子 : そうだったのかー (笑)

レン : 古の魔力排出しちゃってる。

ルビー : (ドラゴン) 「そして、これは昔、大魔導士オオバーバがワシから盗み取っていったものじゃ」

レン : オオバーバ (笑)

ゴレ子 : ΩΩΩ <……！

ルビー : (ドラゴン) 「このワシを殺すためのゴーレムに搭載するエネルギー源としてな」

ゴレ子 : なんとー。そんな伏線が！！ (笑)

ルビー : (ドラゴン) 「オオバーバはワシが焼き殺した。じゃが、オオバーバの技術を継承したやっかいな者がいたらしい、あの錬金術師じゃ！」

レン : (その時、数ページ焼き落ちたんだろうなあ古文書)

ゴレ子 : レンがくしゃみしてそうだ (笑)

レン : 「へっしっ！寒い……のか？」

ゴレ子 : 「レン様、早く……ルビーさんが……」

レン : 「ルビーなんぞどうでも良い！ 問題はポーションじゃ！！」

ゴレ子 : 「ルビー様は仲間ですよ？ レン様……」

ルビー : (ドラゴン) 「このポーションはワシのお宝、じゃがあのゴーレムに渡るのは危険。ならば、あの錬金術師もろともここで始末するのが最良よ！」

ルビー : 思いつめた表情でそのことを聞いていたルビーは、近くにあった金の壺みたいなものでポーションを割ってしまおうと振りかぶる。

ゴレ子 : おお (笑)

ルビー : ドラゴンは、それよりも早くルビーを爪で弾き飛ばし、激しく壁に激突する。

ルビー : 「ぎゃあ……」

ゴレ子 : ルビーちゃんがー (笑)

ルビー : ここで、

ゴレ子 : さてどうなる!

ルビー : 怒ったドラゴンが、熱い蒸気をルビーに吹きかける。

ゴレ子 : 死んじゃうー (笑)

ルビー : 【ポジティブ】蒸気はそれで、ルビーはひどい火傷を負うが死なない。

ルビー : 【ネガティブ】ドラゴンは続けて火も吹いて、服も髪の毛も燃えあがりルビーは丸焦げになってしまう。

ルビー : こんがり焼ける。

ゴレ子 : うわー。こんがり! さてどうしましょうかー。

ゴレ子 : ゴレ子はルビーちゃんにはかわいそうですが、こんがりで (笑) その方が復活したとき感動するかも。

レ ン : 焼けて欲しい…… (笑)

ルビー : 「きゃああああ……」

ゴレ子 : あああああ、焼けちゃったー (笑)

ゴレ子 : (ドラゴン) 「ふん、調子に乗りおって小娘が……思わず焼き殺してしまったぞ」

ルビー : (ドラゴン) 「まあいい、この小娘の存在などもともとワシにとってたいした意味などなかった……」

ルビー : そんなところで場面は終わりです～。

ゴレ子 : はーい。

●場面10 レン【解決】



ゴレ子 : じゃあレンの場面かな。正直あと3場面で落ちつけられるのか (笑)

レ ン : さて。場のダイスは真っ白。これから僕とゴレ子はポジしか選べないわけですね (笑)

ゴレ子 : ですねー。

レ ン : 何にも思い浮かばないので【解決】で!

ゴレ子 : じゃあドラゴンの巣穴にたどりついて、黒焦げになったルビーちゃんを見つけるとか?

レ ン : (ドラゴン) 「わしのポーション返せやああああああああゴル
アアアアアア!!!」

ゴレ子 : 怒るゴレ子! 「ルビーちゃん!!!! ドラゴン……あなたを許しません!!!!」

ルビー : (ドラゴン) 「来たか、ずいぶんとゆっくりだったな」

レン : 「ん？ なになに？ その黒いのなに？」

ゴレ子 : 「……ルビーちゃんです……」

ゴレ子 : 「なぜ殺した！ 答えなさい！」

ルビー : (ドラゴン) 「ワシのお宝に手を出した者は、皆こうなるのだ。この小娘も、オオバーバも、そしてその錬金術師、お前もだ！」

ゴレ子 : 「許さない！！！」涙をこらえてゴーレムパンチを放つ。が、ドラゴンには通用しないぞ！

レン : 「えー、ポーション奪おうとした厄介がいなくなったからいいじゃん。あとはポーション取り返してー。ドラゴン倒してー。うわーいいねえ。楽しみだねえ」レン、黒いなあ(笑)

ゴレ子 : 黒い(笑)

ゴレ子 : この場面でポーションを奪えることにしましょうか。なんかうまく奪う演出はないかな……。

レン : 「！！！！ 首の裏のスイッチじゃ！！！」思い出した(回収)(笑)

ルビー : (ドラゴン) 「させるか！」(ゴーツと激しく炎をゴレ子に吹きかける)

ゴレ子 : 「ポチ！」ドギューン！

レン : システム音『クロック、アップ』

ゴレ子 : 一瞬にして音速を超えたゴレ子は、華麗にポーションの瓶を奪う！！ 狙いをそれた炎は洞窟の壁を焼く。

ゴレ子 : 「レン様、ポーションを回収しました」

レン : 「あっち！ おおお！ よくやったぞゴレ子！！！」

ルビー : (ドラゴン) 「なん……だと……」

ゴレ子 : 「とりあえず逃げましょう！ あとルビーさんの遺体も回収します！ ビューン！」

ゴレ子 : 【ポジティブ】見事いったんドラゴンから逃げ切ることができたでいいのかな？

(注：現在、残りのダイスが全て白一色なのでポジティブしか選べない状態です)

レン : 「待て！ このポーションさえあれば！ ……ああー！！(捕まえられてビューン)」

ルビー : では、そこで……ルビーの遺体が先ほどの場所から無くなっています。

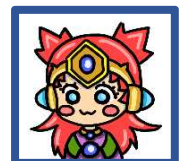
ゴレ子 : なんだとー。どうなってるんだ(笑)

レン : いいすね(笑)

レン : では、白ダイスしかないので逃げ切れた、と。

ゴレ子 : おけー。

●場面 11 ゴレ子【確立】



ゴレ子 : じゃあゴレ子の場面いっちゃうぞー。ドラゴンと再度対決の場面かな、【確立】で。

レン : (レン的にはゴレ子にポーションぶっかけてドラゴン倒したかったかも……。まあ解決だしこれでOK)

ゴレ子 : 一度逃げた2人はドラゴンを倒す方法を再確認します。ようするにポーション(ドラゴンおしっこ)をゴレ子が飲むと縮退炉が暴走し核爆発が起きてドラゴンを撃破できるとそんな感じですかねー。

レン : 飲む(笑)

ゴレ子 : そうレンから説明を受けてドラゴンを確実に仕留めるために再度ドラゴンに接近を試みます。すでに加速装置は使用済み。ドラゴンに突入します!! バシューーン!

ゴレ子 : 「ドラゴン! ここがお前の墓場です!」

ゴレ子 : 「レン様ご無事で! ルビーさんごめんなさい!」

ルビー : (ドラゴン) 「おのれ、ワシのポーションを! この羽虫が~」(ドラゴンブレス、ゴォォ)

ゴレ子 : 音速でブレスをかわすゴレ子。

レン : 「かくかくしかじか。で、治し方は古文書を解読すれば書いてあるじゃろ。オオバーバ様のことじゃ。きっと」

ゴレ子 : 治し方がいてあるのか!

レン : まだ読解してないからわからない(笑)

ゴレ子 : わかんないのかよー(笑)

ゴレ子 : まあ仕方ないではドラゴンの懐に飛び込んでゴクンとポーションを飲む! するとおなかの縮退炉が暴走して……。

ルビー : (ドラゴン) 「いくら素早かろうが、貴様の攻撃ではわしに傷ひとつつけられんぞ!」

ゴレ子 : ゴゴゴゴゴ……ピカー。

レン : (ここで欠陥が発動していいんじゃないかな? ゴレ子的ポジティブで)

ゴレ子 : 「これは核爆発! お前の焔の1000万倍の熱量を持つ!!! 無事ではいられない!」

ルビー : (ドラゴン) 「なにい! (ゴーレムの) 耳や鼻から、煙が出ているだと?」

ゴレ子 : 欠陥発動するとどうなるの?(笑)

レン : 熱量10万倍くらいで、自爆はしないんじゃないすか(笑)

ゴレ子 : おけ(笑) どっかーん! ドラゴンは10万倍の熱量で、ポンコツ熱量で炭になってしまいます。

ルビー : (ドラゴン) 「ぐおああああ」

ゴレ子 : あとに残されたのは焼け焦げたゴレ子。

ゴレ子 : 「あ……れ……自爆していない……?」

ゴレ子 : ゴレ子は戦いを生き延びたのでした……。ポジティブな結果がこれです! 以上!(笑)

レン : 「……えええええええええ!? 破れたページ、そこおおおおおおおお?」

ゴレ子 : 「そこだったの……プシュー」

レン : (ドラゴンは10万倍で倒せたのか……) (笑)

ルビー : ゴレ子生き延びた。

ゴレ子 : 10万倍ってすごいからね! 生き延びちゃった(笑)

●場面 1 2 ルビー【確立】



ゴレ子 : ルビーちゃんの場面です！

ルビー : がんばります。

ゴレ子 : さあ復活はありえるのかそれとも……？

レ ン : 最後ですよ！ 最後！（CV天海春香）

ルビー : 消し炭になったドラゴン、木っ端みじんとならずにすんだゴレ子……。それは一見ベストな結末に見えた……。

ゴレ子 : 「プシュー」

ルビー : だが、黒い塊に見えた古のドラゴンは、立ち上がった。

ゴレ子 : 「なに……そんな……」ゴレ子は動けない。

レ ン : ババーン！

ルビー : ドラゴンはよろめく。ひどい怪我を負っているのは間違いないが、奴にとどめをさすには十分ではなかったのだ。

レ ン : ですよー。

ゴレ子 : 100万倍くらい必要だったかー（笑）

ルビー : ドラゴンは、大きく息を吸い込む。今度こそ敵を焼き尽くすために……。

ゴレ子 : 「加速装置、起動不可能。ゴーレムシールド、起動不可能、ゴーレムビーム起動不可能……戦闘力0.3%に低下……ピピ」

ルビー : そんなとき、レンのすぐそばに這うように歩み寄る者が……。服も髪も焼け、肌は消し炭となっている、生きてはいるはずもない……それが人であったなら……。

ゴレ子 : 「あ、あああ……ル、ルビーさん？」

ルビー : その者の腕や足からは、金属の光沢が見え隠れしている。

ゴレ子 : なんだとー（笑）

ルビー : レンは気が付く、これはゴレ子ではないもう一体のゴーレムだと。

ゴレ子 : すごい展開だ（笑）

レ ン : 「!!! これは!!!」

ルビー : 「レン……さん……わたしの首元のボタンを……」

ゴレ子 : おばあちゃんが作ったゴーレムだったのかなー？ やっぱり首元にボタンあるんだ（笑）

レ ン : 「お、おう……（ポチい）」

ルビー : 「思い出したのです……わたしは、オオバーバ様に作られた……」

ルビー : 「ゴレ子初号機」

レ ン : 初号機（笑）

ゴレ子 : 「そんな……。ルビーさんは私のおねえさんだった……？」

ゴレ子 : でんでんでんでんでん（EVA初号機起動）

ルビー : ルビーと呼ばれた少女、今は金属をむき出しにしたその人形は、さきほどのゴレ子同様、加速したスピードでドラゴンが吐く炎をかいくぐり、ゴレ子を救った。

ゴレ子 : 「ルビーさん！」救われた！

ルビー : 「ゴレ子……わたしの妹……」

ゴレ子 : 「こ、これは……?! お、お姉さん！」

レ ン : システム音『タイプ・フォーミュラー! (CVクリス・ペプラー)』

ルビー : 「ごめんなさい、今まで記憶が封じられていたの」

ルビー : (ゴレ子を見て) 「こんなに、ひどい姿に……」

ゴレ子 : 「ううん……いいんです。世界に私と同じ機械仕掛けのゴーレムの仲間がいただけでもうれしいです。それにルビーさんは私の仲間ですしね」

ゴレ子 : 「それにレン様が直してくれますよ。私たちの体」

レ ン : 「古文書、読解できたらな！」

ルビー : 「本当なら、これは私の使命だったのに……」

ゴレ子 : そうだったのかー (笑)

レ ン : (なんか、フィアスコなのがいい話になってるー)

ゴレ子 : すっごいいい話ー!!!

ルビー : (ドラゴン) 「ゴーレムが2体だと……オオバーバのゴーレムは完成していたというのか！」

ゴレ子 : 「さあ、ドラゴン、最後の時間よ! お祈りは済ませた?!」

ルビー : (ドラゴン) 「ならば共に滅びよ!」 (ドラゴンブレス、ゴォォォ)

ゴレ子 : しかしルビーの加速装置で華麗にかわす!

ルビー : そしてルビーは、ゴレ子をレンのほうに突き飛ばす。

レ ン : 「ま、まあ良い! ドラゴンよこれで終わりだー! ブワーッハッハッハ!!!」

ゴレ子 : 「あっ? ルビーさん?」ドゴォとレンの股間に突っ込むゴレ子。

レ ン : 「ブフォォ!?!」

ルビー : ルビーの手には、ゴレ子の飲み残した? 黄金の液体が入った瓶が。

ゴレ子 : そ、それはー、ドラゴンおしっこー (笑)

レ ン : 飲み干してなかった (笑)

ルビー : 「ゴレ子、さようなら……レンさん、ゴレ子をこれからもよろしくね……」ルビーはポーションを飲みます。

ゴレ子 : 「まってください! おねえさん! ルビー—————」

ゴレ子 : 真っ白な閃光に周囲は包まれ……

ルビー : ゴレ子と違って完全体のゴーレムであるルビィは計算通りの熱を放ちながら……。

ゴレ子 : 1000万倍だー!

レ ン : 飲み残しでも1000万倍……オオバーバの技術力とは……。

ルビー : 加速装置で突撃し、ドラゴンブレスの真ん中につっこんで、ドラゴンの口の中へと飛び込んでいきます。

ゴレ子 : 恐ろしい……! ルビーちゃんが犠牲になってしまったー (笑)

ルビー : (ドラゴン) 「うぎゃああああ 熱い、熱い……ぎゃあああああ」

ルビー : そして、激しい閃光と共に大爆発が。

ゴレ子 : ああー。

ゴレ子 : 「レン様……逃げましょうここはもうすぐ崩壊します……」

レ ン : 「……え? (もう荷物まとめてる)」

ゴレ子 : 「レン様……」 (笑)

ルビー : 【ポジティブ】ドラゴンは今度こそ爆散。ゴレ子とレンは無事に脱出。

ルビー : 【ネガティブ】ドラゴンはやはり爆散。しかし、1000万倍はシャレにならない威力すぎて、ゴレ子とレンも爆発に巻き込まれ、行方がエンディングまで不明…

ゴレ子 : わろっしゅ (笑)

レン : 不明にしたい (笑)

ゴレ子 : 不明面白そうだけど白ダイスしか残ってない (笑)

レン : いや、最後のダイスはワイルドダイスなのでどっちも選べますよ。

ゴレ子 : あ、そっか！ ワイルドダイスだった！ じゃあ不明で (笑) ピカー！光になれ————！

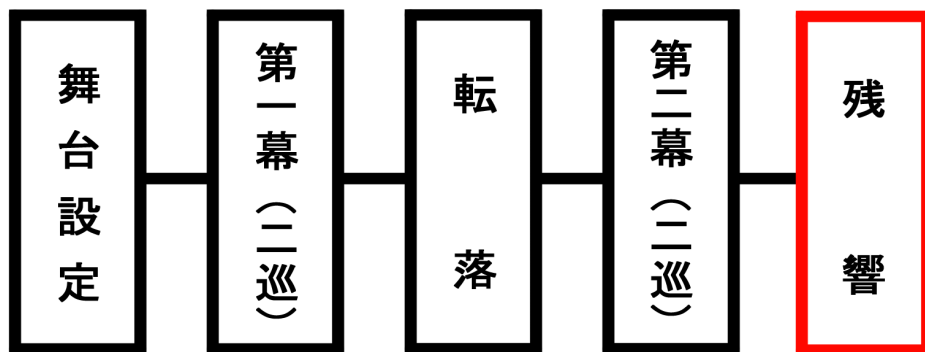
ルビー : どっかーん！

ゴレ子 : チュドーン！

ゴレ子 : じゃあこれで場面の演出は終わりかな。

ルビー : はい。終わりです～。

■残響■



【第二幕】が終わると、【残響】の処理を行い、物語の最後に各キャラクターがどのような結末を迎えるのかを決定します。

【第一幕】と【第二幕】で得た白ダイスと黒ダイスを振り、色ごとの出目を合計して、高い色の値から低い色の値を引きます。その値をルールブックに記載されている「残響表」に照らし合わせ、結果を確認します。

ゴレ子 : じゃあ【残響】の解決にはいりましょうかー。

ゴレ子 : 0が、一番悪い結果で、数字が高いといい結果になるかも？ というわけでダイスを振ろうかな！

ゴレ子 : (コロコロ) 「黒の1」という結果になりました！

レン : (コロコロ) 「白の2」ですね。

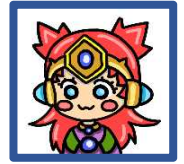
ゴレ子 : ルビーちゃんが一番いい結末になる可能性がある。がんばれー。

ルビー : (コロコロ) 「黒の9」

ゴレ子 : 黒の9か。強い (笑)

ルビー : 生き残った (笑)

●ゴレ子



【黒の1 凄惨】

おそらく死ぬ。他人も、それもおそらく罪無き人も同様に死ぬ。そこには正義も慈悲も何もない。すべては完全に余すところなく台無しとなる。しかもそのすべては君に責任がある。

ゴレ子 : じゃあ残響を演出していくー？

ルビー : はい～。

レン : 先にやりたい方いたらどうぞ。

ゴレ子 : じゃあゴレ子からですが、あまり演出することはありません。爆発に巻き込まれて、1000万倍の熱でとかされて、消し炭になって消えてしまったのです……！

ルビー : ゴレ子～（泣）

ゴレ子 : ルビーとレンには感謝していたのではないのでしょうか……プシュー。仮の命を与えられたゴレ子でしたが幸せだったよ……。

レン : うわぁ。

ゴレ子 : そんな独白をして死んでしまったのです。

ルビー : 悲しい……。

ゴレ子 : 「3人で旅をした短い間。私の命は輝いていました」

ゴレ子 : 「夏の花火のような。はかなくて美しい生を生きたゴレ子は幸せでした……」

ゴレ子 : ごれ子の魂は天に昇りもう一度新しい命へと転生していくのでしょうか……。以上！（笑）

ゴレ子 : ゴレ子ががんばった！

ルビー : いい子でした……。

●レン



【白の2 無情】

傍から見れば、死んでいないかのように見えるかもしれない。しかし内実では確実に死んでいる。心に負った傷は決して治ることはない。未来はもう行き詰っている。

レン : では。

ゴレ子 : がんばー。

レン : 「あ……う……あ……」

ゴレ子 : バッドエンドになっちまうー（笑）

レン : あの戦いから数ヶ月。レンは言葉と両足を失い車椅子で某街の某施設暮らし。

ゴレ子 : なんという絶望的な……。

ルビー : うわぁ。

レン : そこに現れる一人の人物。

レン : ???「レンよ、このような姿になってしまって醜いのう」

ゴレ子 : だれだー（笑）

レン : ???「まあ良い。これからわしの『最高傑作』として生まれ変われることを光栄に思うが良い」

レン : ???「何せわしはこの『古文書』を残した偉大なる錬金術師なのだからな。オーッホッホッホッホ」

ゴレ子 : なるほど(笑) パーチャンだったか。

レン : こうして、レンは「彼女」の実験材料と成り果てるのだった……。以上ですー。

ゴレ子 : うまいなー。いいまとまりだ。パチパチ、いい落ちでした。

ルビー : いいですねえ。2人とも締め方がうまい……。

ゴレ子 : ねー。ルビーちゃんはどう締めるのか……。

●ルビー



【黒の8〜書くこと無し。振り出しに戻る】

もしかしたら昨日や明日と同じように、痛みに苦しみ、無一文であるかもしれない。しかしおそらくそこから何かを、そう次はどう上手くやればいいのか、といった事を学んだだろう。そう次こそは……。

ルビー : ルビーは、町で目覚めます。

ゴレ子 : 目覚めたー。

ルビー : オオバーバ様オリジナルのゴーレムには、高度な修復機能があったのでしょうか。あるいは、オオバーバ様が修復してくれたのかもしれませんが。けれどそのことをルビーは知りません。

ゴレ子 : オオバーバさんすごい。

ルビー : 爆発に驚いた町の人たちが、恐る恐る様子を見に来て……瓦礫と共にくらがっているルビーを発見、救出し、その後ルビーは長らく町長の家のベッドで意識不明のまま眠っていたようです。

ゴレ子 : 唯一の生き残りルビーちゃん……。

ルビー : 目覚めたとき町の人たちは、ルビーを、そしてその仲間のことをほめたたえ感謝します。けれどルビーは……ただ黙ってうつむくことしかできません。

ルビー : だって、自分はただの人間の小娘……。ドラゴンを倒したのは、ゴレ子であり、ゴレ子を創造したレンなのだから。そして、その2人にはもう会えないのだから……。

ゴレ子 : 記憶失っちゃったのかなー。悲しい……。

ルビー : 最初は強い人たちについていけば、金銭的なメリットがあるんじゃないかと思って、一緒にいただけでした。でも、こうしてひとりぼっちになると、まるで家族のような……。

ルビー : そう、大切な妹や兄をうしなったような喪失感を覚え……ルビーは、ひとり涙するのです。

【おわり】

ゴレ子 : ううゴレ子生き返って慰めに行きたいよー。ぱちぱちーお疲れさまでしたー。いい話フィアスコだった！

ルビー : フィアスコ、泣けるゲームでしたね。

レン : 残響があれで決まってるから最後はどうしようもないんですけど、セッション中が結構うまくまとまったのでしっとりで終わりましたねー。

ゴレ子 : とても楽しかったです (笑)

レン : お疲れ様でした!!

ルビー : お疲れ様でした。ありがとうございました。

●補足

【場所】6-5の【要素】には、エラッタが出ています。発売後、すぐに正誤表が公開されたのですが、このセッションの開催はそれよりも早かったため、訂正前の内容が物語に組み込まれています。

誤) 君を英雄と呼んでくれた町は如何 (彼らを殺してしまう前までは)

正) 君にとっての初めてのダンジョン (今や崩壊して死体だらけ)

本来のルールでは、フラッシュバックを使って【残響】を演出することになっていますが、今回は省略しています。

オオバーバ様のフルネームは、オバーチャング・オオバーバということにします。

(これで、NPCの名前を間違えたという事実が、なかったことに……)

●最後に

フィアスコはユニークでとても楽しいTRPGです。本リプレイで少しでもフィアスコの魅力を少しでも伝えられたなら幸いです。フィアスコは、現在PDF版が発売中で、書籍版は2017年10月発売予定です。

(注: 2017年10月中旬、無事発売されました)